

1 現千葉市立病院改革プランの概要

- (1) 背景
平成19年12月「公立病院改革ガイドライン」(総務省)
平成22年1月「千葉市立病院改革プラン」策定(平成21年度からの5ヵ年計画)
取組事項や主要指標については平成21年度からの3ヵ年計画
→平成24年度からの取組項目や主要指標を新たに定める必要がある。
- (2) 進捗状況
地方公営企業法の全部適用への移行をはじめ、概ね計画通り進捗
ただし、病床利用率が課題(計画を大幅に未達)

2 現状の課題

- (1) 独立した医療安全部門の未整備: リスクマネジメント活動は不十分
(2) 統一的な人材育成方針の欠如: 病院局全体の職種別階層別教育体系が未確立
(3) 繰入金依存体質
【青葉病院】: 2,662百万円、【海浜病院】: 1,496百万円(税込 平成22年度実績)
※ 100床当たり繰入金額を政令指定都市で比較すると大阪市に次いで高い(610百万円)。
(4) 低い病床利用率
【青葉病院】: 74.4%、【海浜病院】: 69.7%(平成22年度実績)
※ 公立病院改革ガイドラインにおいて病床削減の目安とされた70%に近い状況
(5) 高い固定費比率(医業収益に対する人件費や減価償却費などの固定費の割合)
【青葉病院】: 94.9%、【海浜病院】: 81.6%(平成22年度実績) ※ 国立病院機構: 59.0%

3 新千葉市立病院改革プラン(新改革プラン)の前提となる考え方

- (1) 千葉市の患者推計 入院は10年後30%増加、外来は高齢者中心に増加
(2) 市立病院の役割 ①市民が必要とする安全・安心な医療を提供する。
(病院局の使命) ②健全な病院経営を確立し、市立病院を持続発展させる。
(3) 新改革プランの前提条件: 現在地での2病院体制(全部適用)、現診療科目を原則維持
(4) 新改革プランの基本方針
①自立自尊の精神で持続可能な経営体質を目指す(脱繰入金依存体質)。
※ 国立病院機構: 事業収益の実質1%程度の運営費交付金(繰入金)で黒字経営
②10年後に目指すべき病院像を描き、経営改善計画の第一幕として位置づける。
(5) 10年後に目指すべき病院像

ア 医療安全が確立された病院

イ 人材育成の取組みが充実した病院

ウ 専門特化した病院

- ・ 院内最適・地域最適→両病院の診療機能の集約化を行う。
 - ・ 特定の診療科に強みを持つ病院を目指す。
- 両病院が一体となり、4疾病・4事業等へ対応する。

		青葉病院	海浜病院
4疾病	がん		がん診療連携拠点病院
	脳卒中	脳卒中診療部	
	急性心筋梗塞	両病院の連携等により対応	
	糖尿病	糖尿病センター	
4事業	救急医療	地域救命救急センター	夜間救急初期診療部(※)
	災害医療	災害拠点病院	災害拠点病院(※)
	周産期医療		地域周産期母子医療センター(※)
	小児医療		小児医療(※)
プラスα	精神疾患	精神疾患センター	
	その他	整形外科センター	
		地域医療支援病院	

(※) は既設

4 新改革プランの概要

- (1) 基本方針
① 診療の専門特化、② 拡大均衡策(医師等を増員し収益を拡大、損益改善を図る。)
- (2) 計画期間: 平成24~26年度(3ヵ年計画)
- (3) 診療体制

【青葉病院】

- ① 断らない救急医療の構築
- ② 精神科の強化
- ③ 整形外科の集約化
- ④ 糖尿病診療体制の強化

【海浜病院】

- ① 地域医療支援病院の認定
- ② がん診療の強化
- ③ 周産期及び小児医療の充実・強化

【両病院共通】

- ① 7対1看護基準の取得
- ② クリニカルパスの推進
- ③ 地域の医療機関との連携強化
- ④ 急性期リハビリの強化

(4) 設備・医療機器投資計画

	戦略投資(費用対効果を見極め実施)	更新投資
建物 構築物	【青葉病院】 救急処置室の拡充 【海浜病院】 リニアック棟などの増設 【両病院】 労働環境整備(人員増に伴う対応)	【両病院】 老朽化した設備等の更新
医療機器	【海浜病院】 リニアック(放射線治療装置)	【両病院】 老朽化した機器の更新

(5) 人員計画(医師・看護職のみ記載)

	現状(平成23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
医師数	【青葉病院】 56人 【海浜病院】 53人	+4人 +3人	0人 +6人	+4人 +3人	64人(+8人) 65人(+12人)
看護師数	【青葉病院】 273人 【海浜病院】 265人	+29人 +19人	+8人 +13人	+12人 +10人	322人(+49人) 307人(+42人)
※ 7:1看護配置基準などに対応					

(6) 収支計画(繰入金の考え方)

平成26年度医業収支を10億円程度改善(対23年度予算比)し、繰入金を相当額減じる。

(7) 課題と対応策

- ア 独立した医療安全部門の未整備 → 医療安全の取組み強化(医療安全部門の組織新設等)
イ 統一的な人材育成方針の欠如 → 人材育成方針の策定(職種別階層別教育体系)
ウ 繰入金依存体質 } 4疾病・4事業等に医療資源を重点的に配分(拡大均衡策)し、病床利用率を引
エ 低い病床利用率 } き上げ、医業収支を改善。その結果、固定費比率、繰入金が下がる。
オ 高い固定費比率 } 【収益的収支繰入金】 青葉病院 2,006百万円 海浜病院 894百万円
【病床利用率】 青葉病院 87.0% 海浜病院 78.6%
【固定費比率】 青葉病院 81.1% 海浜病院 78.2%
- カ その他の対応策
・ 業務改善運動いわゆる「カイゼン」活動の全病院的な推進
・ 医療専門職種(診療情報管理士等)の配置
・ 病診連携の推進など(使用料(分べん料、非紹介患者加算料等)の見直し等)

5 両市立病院再整備基本構想(平成8年)及び市立海浜病院再整備基本計画(平成12年)の見直し

海浜病院と青葉病院の役割分担や連携について、新改革プランの進捗状況を見極めながら、今後の海浜病院のあり方を検討する。

6 今後のスケジュール

平成23年11月 病院運営委員会
同年11月 保健消防委員会 所管事務調査
同年12月 パブリックコメント
平成24年2月 新改革プランの策定・公表